

15.11期第2四半期決算概要および中期の取り組み

～ 農業データを活用した事業の展開へ ～

The JASDAQ logo, featuring the word "JASDAQ" in a stylized green font with a swoosh underneath.

銘柄コード：2493

The logo for I-Support Link, consisting of a blue stylized 'I' followed by the text 'イーサポートリンク株式会社' in black.

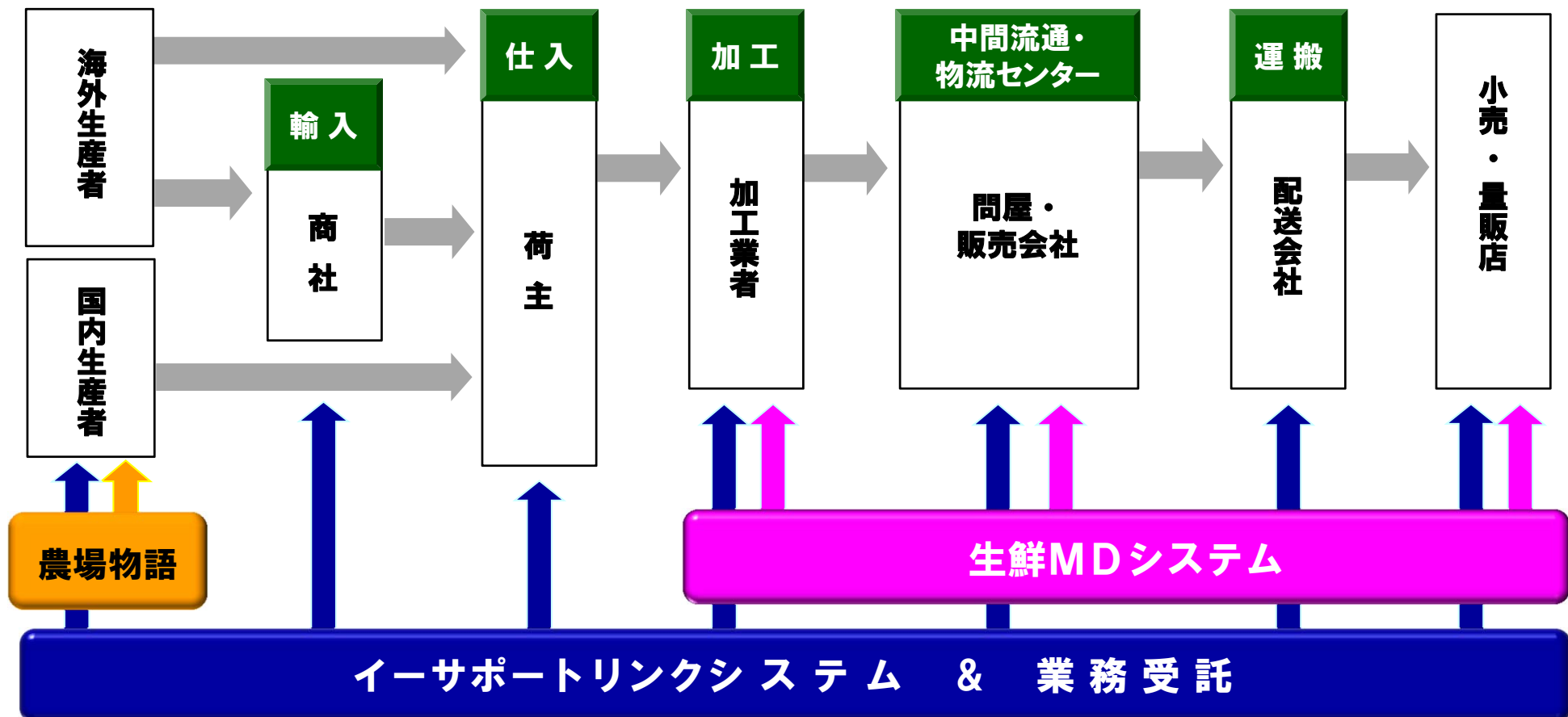
イーサポートリンク株式会社

2015年 7月 23日（木）

経 営 理 念

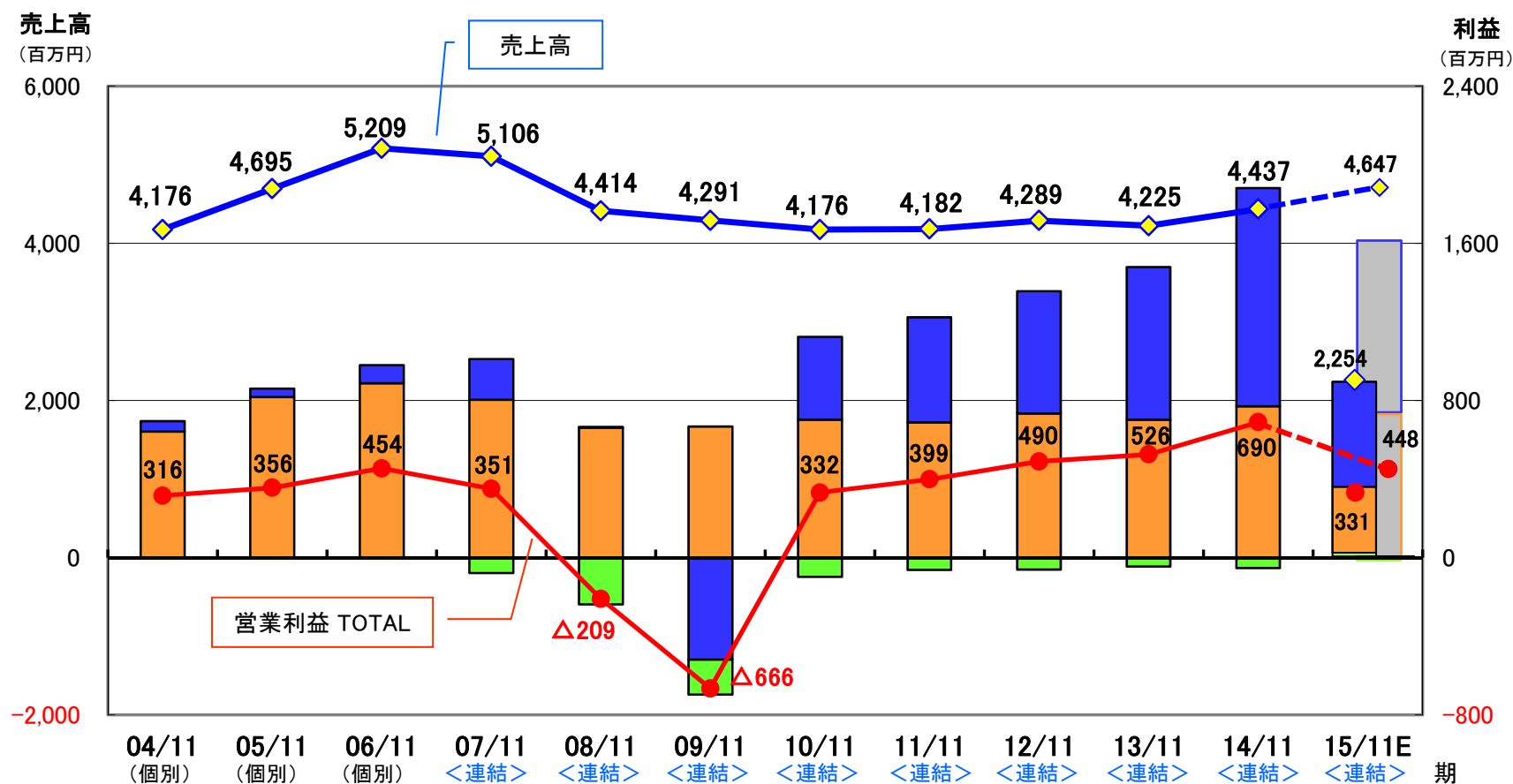
全ては生産者と生活者のために

■ 生鮮流通に携わるすべての人達をシステムと業務受託でサポート



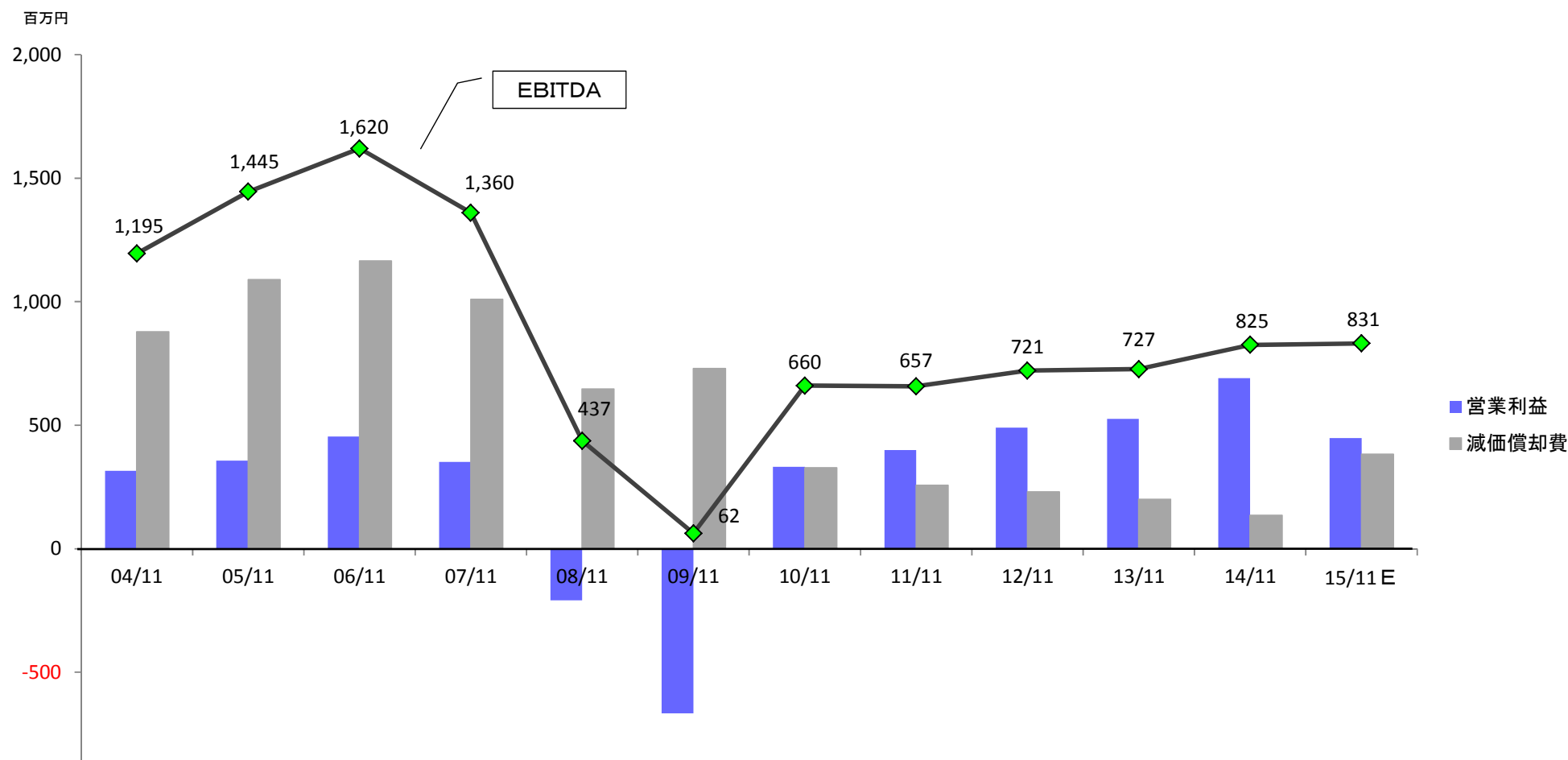
※ この図解はあくまでイメージ図で、全ての取り引きがこの限りではありません。

セグメント別：売上高・営業利益推移



		04/11	05/11	06/11	07/11	08/11	09/11	10/11	11/11	12/11	13/11	14/11	15/11E
システム事業	売上高	1,753	2,034	2,294	2,304	2,001	2,056	2,086	2,085	2,187	2,188	2,390	2,564
	営業利益	52	42	92	207	4	△ 518	422	533	623	777	1,111	878
業務受託事業	売上高	2,422	2,660	2,915	2,760	2,366	2,098	1,944	1,961	2,005	1,928	1,912	1,918
	営業利益	643	818	888	805	662	667	702	690	734	703	771	735
農産物販売事業	売上高	—	—	—	41	52	148	164	165	135	143	174	207
	営業利益	—	—	—	△ 77	△ 237	△ 178	△ 97	△ 63	△ 60	△ 45	△ 53	△ 14
相殺消去	売上高	—	—	—	—	△ 6	△ 12	△ 19	△ 29	△ 39	△ 34	△ 39	△ 43
	営業利益	△ 379	△ 504	△ 526	△ 583	△ 639	△ 636	△ 694	△ 760	△ 806	△ 909	△ 1,138	△ 1,150

* 百万円未満は切捨てて表記



<主なソフトウェア投資内容>

イーサポート リンク システム	稼働開始 → 償却発生	初期構築費用: 償却終了	Ver.2 投資開始	サブシステム 繰上償還	Ver.2 稼働開始 → 償却発生
生鮮MD システム	投資開始	稼働開始 減損処理	投資 (店舗発注 システム)	投資 (機能追加)	・新システム稼働開始 ・サーバ増設 → 償却発生

注: イーサポートリンクシステムの“サブシステム”においては、随時開発→稼働→償却発生

■ 15/11期第2四半期 決算概要

(単位: 百万円、%)

	14/11上期 実績	15/11上期 実績	前年同期比	15/11上期 計画	計画達成率
売上高	2,184	2,254	103.2%	2,209	102.0%
営業利益	356	331	93.1%	220	150.1%
経常利益	361	351	97.3%	214	164.3%
当期純利益	188	173	91.7%	122	140.8%

※ 百万円未満切捨てで表記

■ 売上高 . . .

- ・ システム事業において売上増となり、前期、計画値ともに上回る
- ・ 生鮮MDシステムのデータ件数が増加し、売上に貢献

■ 利益 . . .

新システム：イーサポートリンクシステムVer. 2の稼動が下期になったことから減価償却費用が発生せず、計画値を上回った

損益計算書／包括利益計算書

(単位: 百万円、%)

科 目	14/11上期		15/11上期		前年 同期比
	金額	売上比	金額	売上比	
売上高	2,184	100.0%	2,254	100.0%	103.2%
売上原価	936	42.9%	1,021	45.3%	109.0%
売上総利益	1,247	57.1%	1,233	54.7%	98.9%
販売費及び一般管理費	891	40.8%	901	40.0%	101.2%
営業利益	356	16.3%	331	14.7%	93.1%
営業外損益	5	0.2%	20	0.9%	397.1%
経常利益	361	16.5%	351	15.6%	97.3%
特別損益	0	—	△ 1	-0.1%	216.4%
税引前当期純利益	360	16.5%	350	15.6%	97.1%
法人税等	172	7.9%	177	7.9%	103.2%
当期純利益	188	8.6%	173	7.7%	91.7%
1株当たり当期純利益	42.69円		39.13円		
少数株主損益調整前 当期純利益	188	8.6%	173	7.7%	91.7%
その他の包括利益	3	0.1%	7	0.3%	224.2%
包括利益	192	8.8%	180	8.0%	93.8%

< 主な要因 >

新システム 関連費用と、保守費、
人件費の増加

投資に関わる運用益

※百万円未満切捨てで表記

セグメント別売上高／営業利益

(単位: 百万円、%)

	14/11上期		15/11上期		金額増減	前年同期比
	金額	売上比	金額	売上比		
売上高	2,184	100.0%	2,254	100.0%	70	103.2%
システム事業	1,155	52.9%	1,208	53.6%	52	104.6%
業務受託事業	940	43.0%	926	41.1%	△ 13	98.6%
農産物販売事業	100	4.6%	131	5.8%	31	131.6%
内部売上高	△ 11	-0.5%	△ 12	-0.5%	11	0.0%
売上原価、販管費	1,828	83.7%	1,922	85.3%	94	105.2%
システム事業	623	28.5%	670	29.7%	46	107.5%
業務受託事業	560	25.6%	575	25.5%	16	103.0%
農産物販売事業	122	5.6%	130	5.8%	7	106.1%
全社消去	522	23.9%	546	24.2%	18	0.0%
営業利益	356	16.3%	331	14.7%	△ 24	93.1%
システム事業	532	24.4%	538	23.9%	5	101.1%
業務受託事業	379	17.4%	350	15.5%	△ 30	92.0%
農産物販売事業	△ 22	-1.0%	1	0.1%	24	-7.8%
全社消去	△ 533	-24.4%	△ 559	-24.8%	△ 6	0.0%

＜主な要因＞

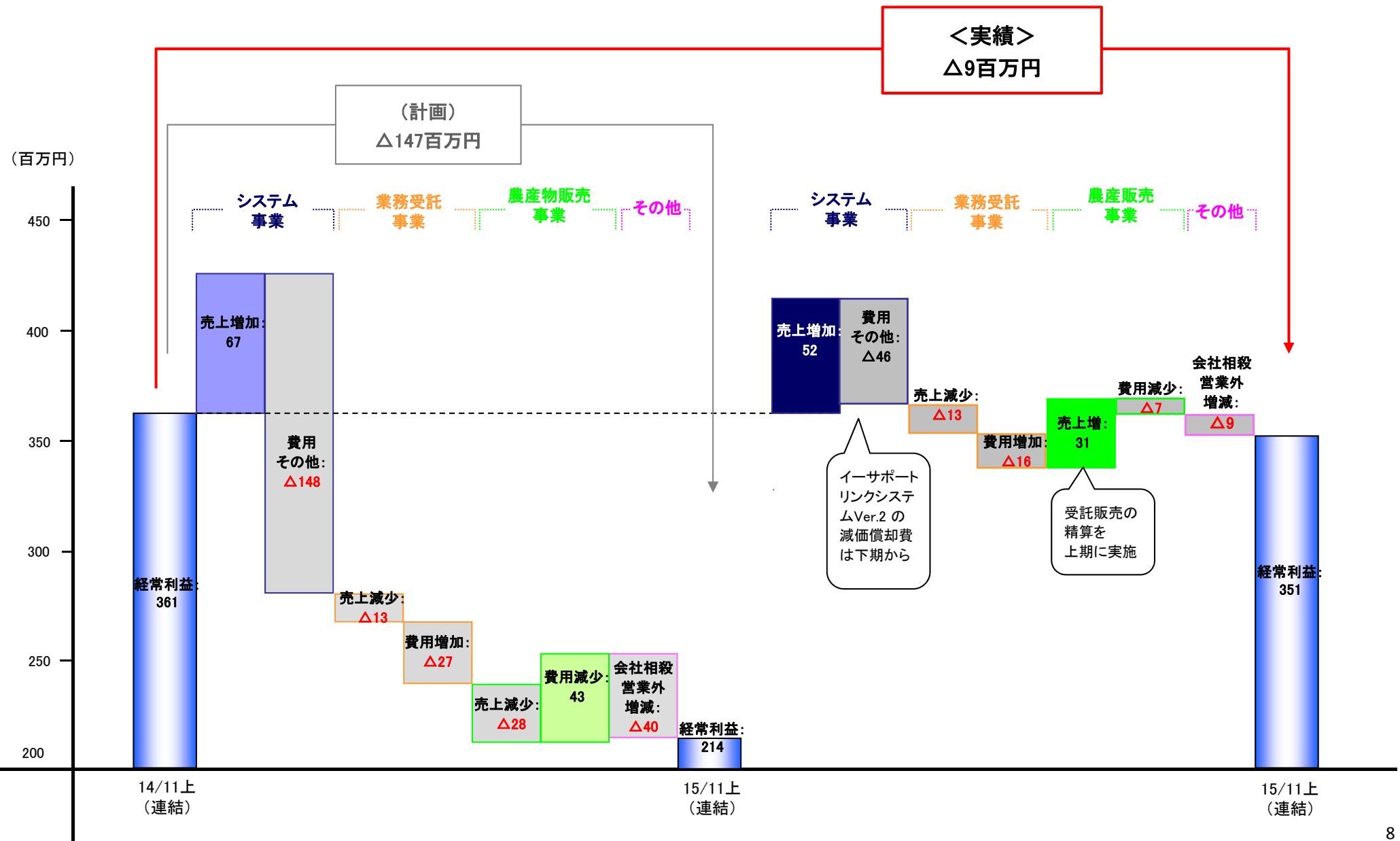
・生鮮MDシステムのデータ量増

・精算時期を前倒し

新システム導入準備に係る人件費増

※百万円未満切捨てで表記

イーサポートリンクシステムVer.2の稼動が下期に変更で、費用負担が減少



貸借対照表

(単位: 百万円)

	14/11期末	15/11上期末	増減額
【 流 動 資 産 】	3,203	2,999	△ 203
【 固 定 資 産 】	2,005	2,038	32
有 形 固 定 資 産	378	376	△ 1
無 形 固 定 資 産	1,279	1,330	50
投 資 そ の 他 の 資 産	347	331	△ 15
【 繰 延 資 産 】	3	3	0
資 産 合 計	5,211	5,040	△ 171
【 流 動 負 債 】	1,217	947	△ 269
【 固 定 負 債 】	934	849	△ 85
負 債 合 計	2,151	1,796	△ 355
資 本 金	2,721	2,721	—
【 資 本 剰 余 金 】	620	620	—
【 利 益 剰 余 金 】	△ 229	△ 52	176
【 そ の 他 】	△ 52	△ 45	7
純 資 産 合 計	3,059	3,243	183
負 債 純 資 産 合 計	5,211	5,040	△ 171

< 主な要因 >

ソフトウェア仮勘定増加

・新システム 開発費用の未払金の
支払い

・社債、長期借入金の減少

※百万円未満切捨てで表記

(単位: 百万円)

	14/11上期	15/11上期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	98	81	△ 17
投資活動によるキャッシュフロー	△ 151	△ 126	25
財務活動によるキャッシュフロー	△ 306	△ 175	131
現金及び預金同等物の増減額	△ 359	△ 220	139
現金及び預金同等物の期首残高	2,625	2,511	△ 114
現金及び預金同等物の期末残高	2,265	2,290	24

※百万円未満切捨てで表記

● 15/11期 業績見通し

- ・ 主要顧客による安定収益と、生鮮MDシステムのデータ量増加で売上拡大を見込む
- ・ 新システムの稼動に伴い償却費／導入費用等が嵩み、利益は減少
- ・ 中長期的な成長に向けた研究開発活動を積極的に推進

(単位:百万円、%)

	12/11期 実績	13/11期 実績	14/11期 実績	15/11期 計画	前期対比
売上高	4,289	4,225	4,437	4,647	104.7%
営業利益	490	526	690	448	65.0%
経常利益	474	517	693	435	62.9%
当期純利益	439	316	334	250	74.8%
1株当たり当期純利益	9,927.15円	※ 71.46円	※ 75.64円	※ 56.56円	74.8%
ソフトウェア投資額	620	316	451	119	
ソフトウェア償却費	190	121	56	234	

※百万円未満切捨てで表記

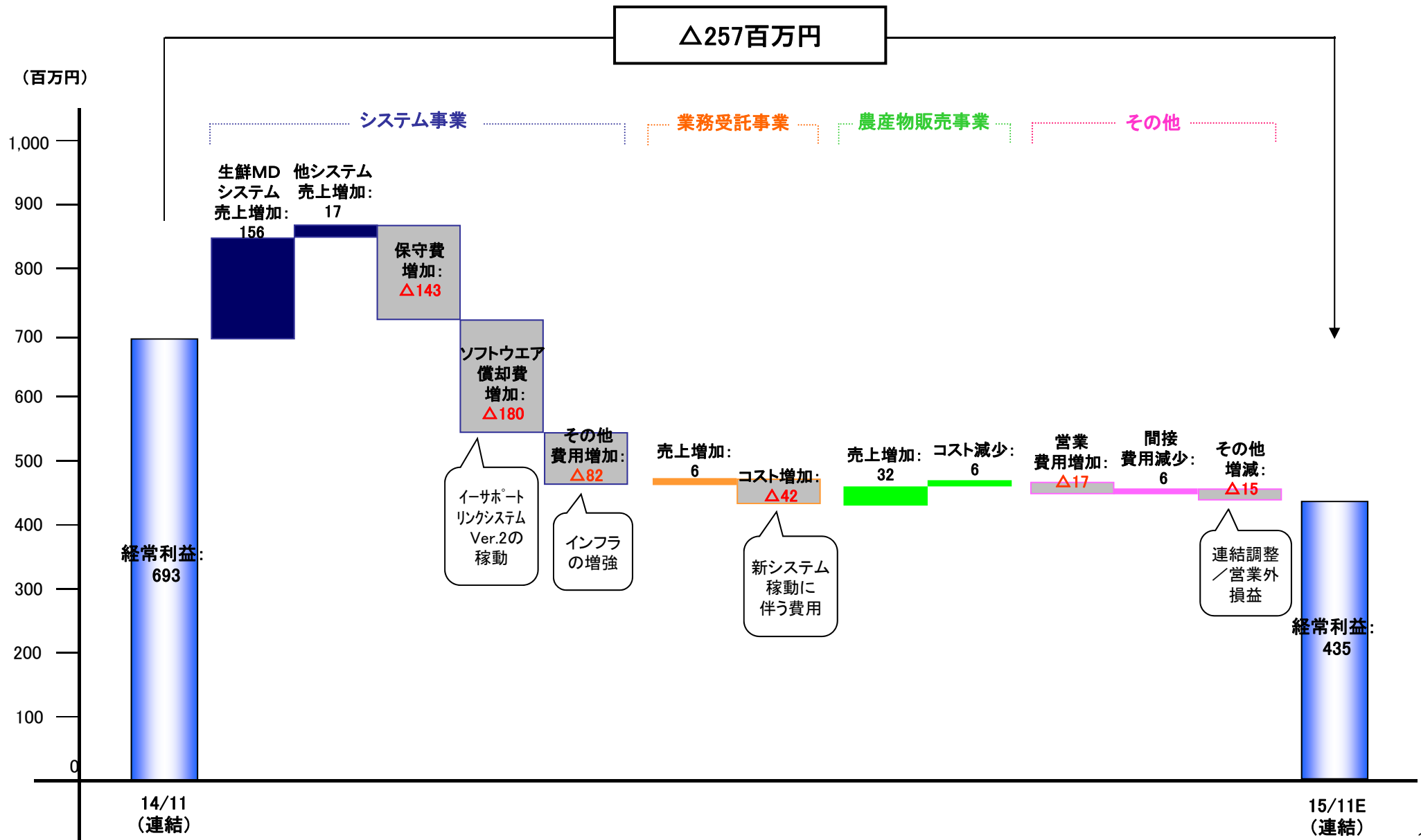
※ 2013/6/1より単元株制度を採用し、単元株式数を1株から100株に変更

- システム事業 : 生鮮MDシステムの導入拡大から売上増加を見込む
- 業務受託事業 : サービスレベルおよび生産性の向上に取り組み、業務受託範囲の拡大に取り組む
- 農産物販売事業 : 生産者との関係性と販売力の強化により、収益性の向上に努める

(単位: 百万円、%)

	12/11期 実績	13/11期 実績	14/11期 実績	15/11期 計画	前期対比
売上高	4,289	4,225	4,437	4,647	104.7%
システム事業 売上比	2,187 51.0%	2,188 51.8%	2,390 53.9%	2,564 55.2%	107.3%
業務受託事業 売上比	2,005 46.8%	1,928 45.6%	1,912 43.1%	1,918 41.3%	100.3%
農産物販売事業 売上比	135 3.2%	143 3.4%	174 3.9%	207 4.5%	118.8%
* 相殺消去分 売上比 (連結による相殺)	△39 △0.9%	△34 △0.8%	△39 △0.9%	△43 △0.9%	—

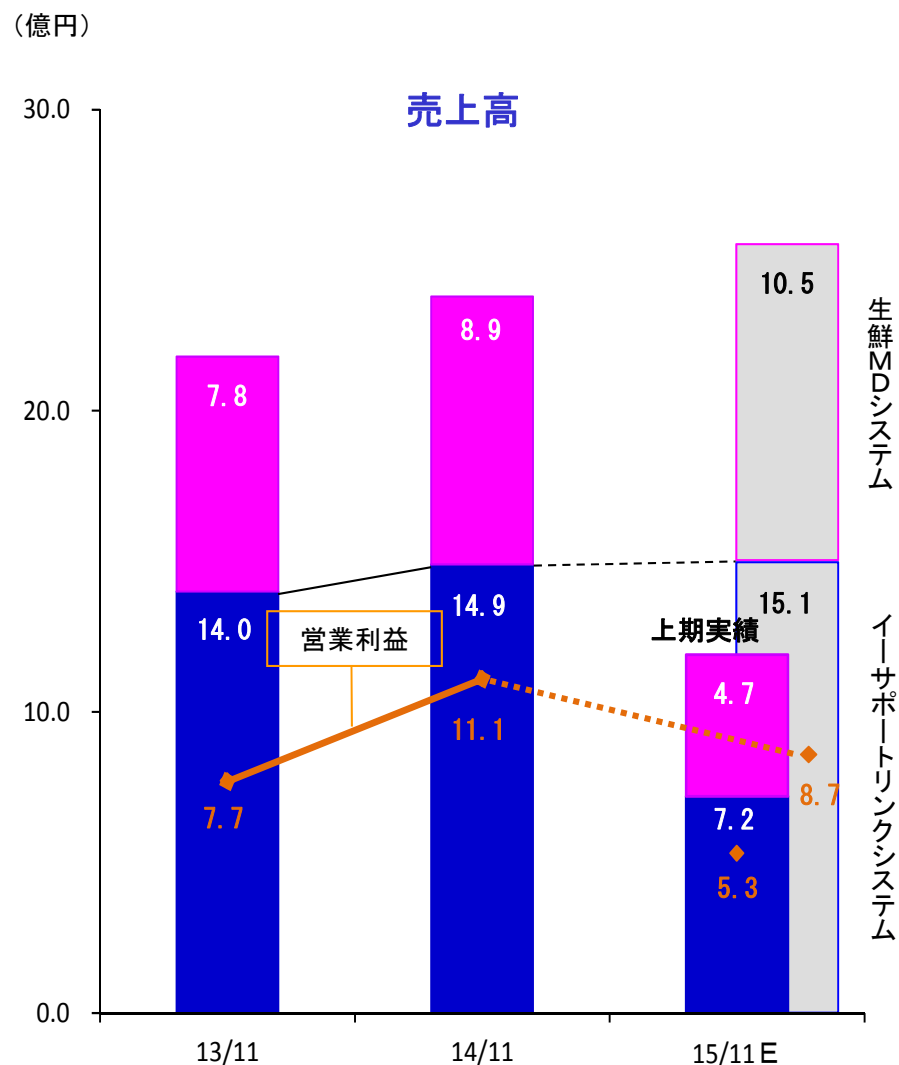
イーサポートリンクシステムVer.2の稼動に伴う準備費用／償却負担で、減益を見込む



— セグメント別事業展開 —



システム事業



		13/11	14/11	15/11E
売上高	イーサポートリンクシステム	14.0	14.9	15.1
	生鮮MDシステム	7.8	8.9	10.5
	合計	21.8	23.9	25.6
営業利益		7.7	11.1	8.7

※ 売上高には内部売上高が含まれる

＜イーサポートリンクシステム＞ － 基幹システム －

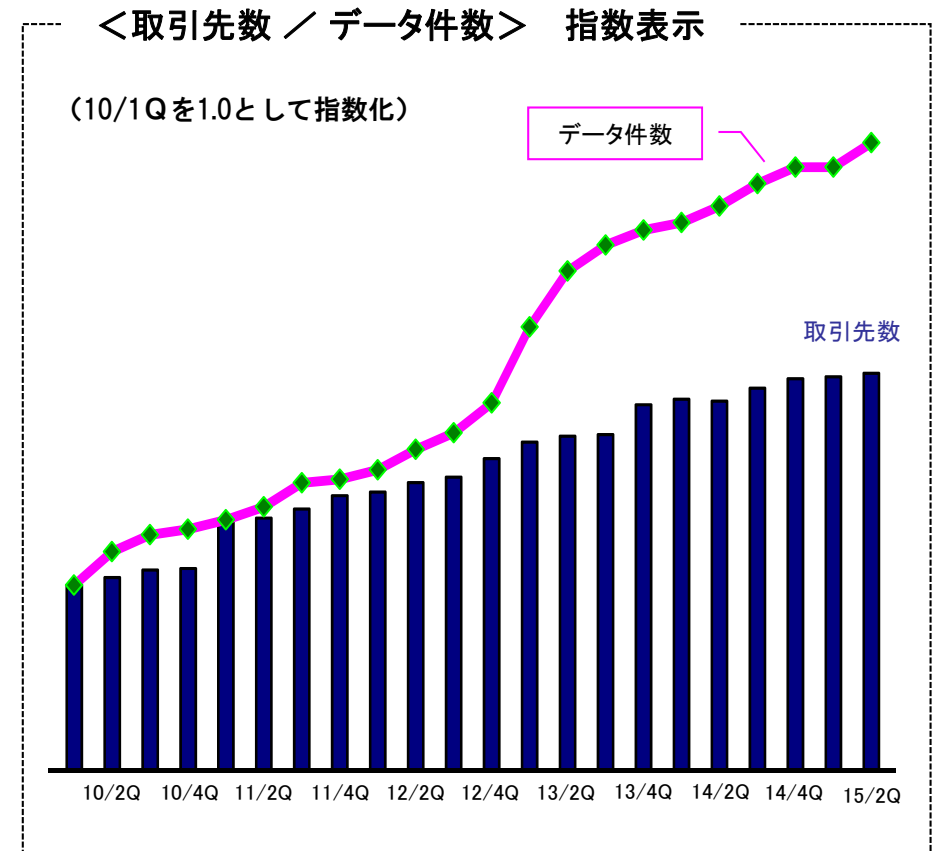
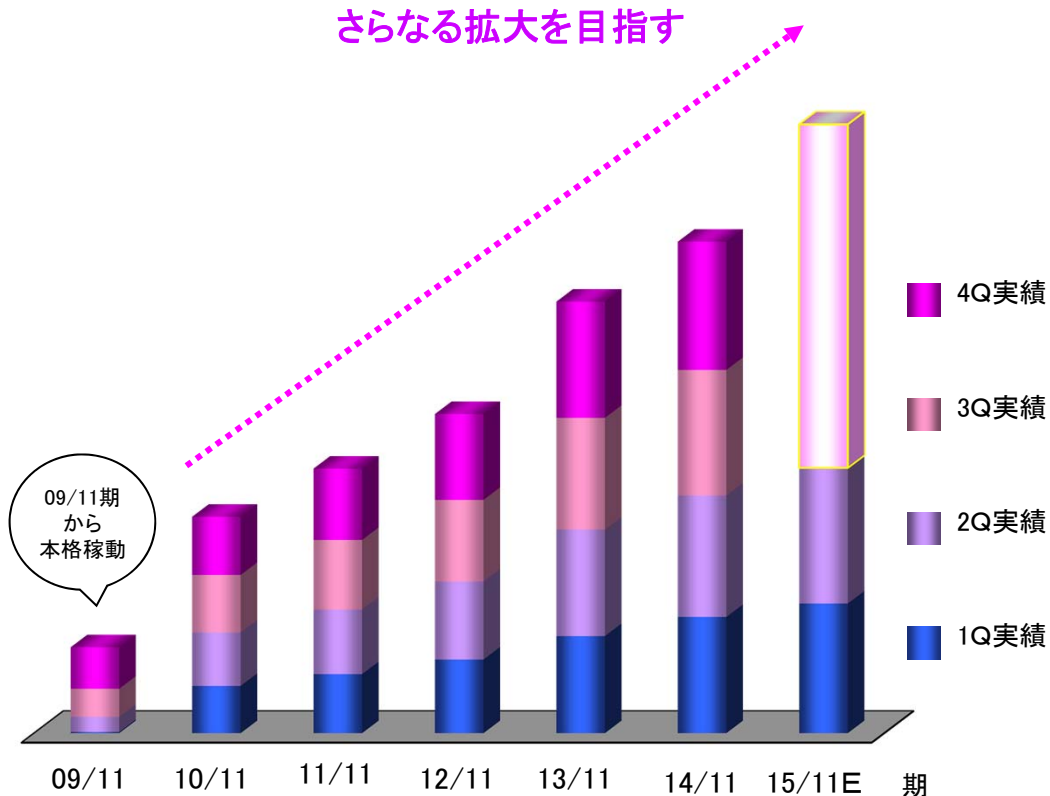
- ◆ 15/11上期の概況
 - ・イーサポートリンクシステムVer.2の稼働が下期へ
- 15/11期の見通し
 - ・イーサポートリンクシステムVer.2の稼働
主要クライアント企業の安定運用に注力

＜生鮮MDシステム＞

- ◆ 15/11上期の概況
 - ・既存顧客のシステム利用によるデータ件数の増加により
前期を上回る
 - ・店舗発注システムの導入が進む
- 15/11期の見通し
 - ・新規顧客への導入により、売上増加を見込む
 - ・取引先(仕入先)への新サービス提供により、更なる
顧客拡大を目指す

イーサポートリンクシステムVer.2の完成リリース、
生鮮MDシステムの稼働率アップを目指す

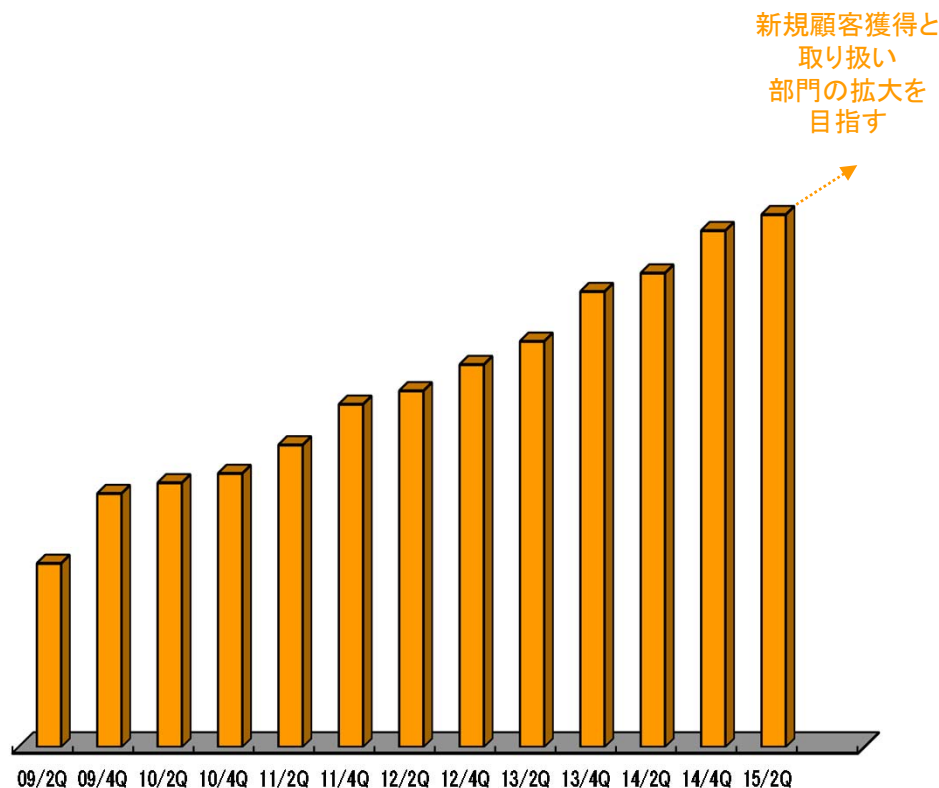
■ 売上高推移 (イメージ図)



- 既存顧客の取り扱い部門の拡大により、データ／トランザクション件数(量)の増加へ
- 大手量販店の統合に伴い、新規顧客への導入も進む
- ISO20000 (ITサービスマネジメント)、ISO27001 (情報セキュリティマネジメントシステム) の取得で、顧客信頼度の向上から導入数の拡大を図る

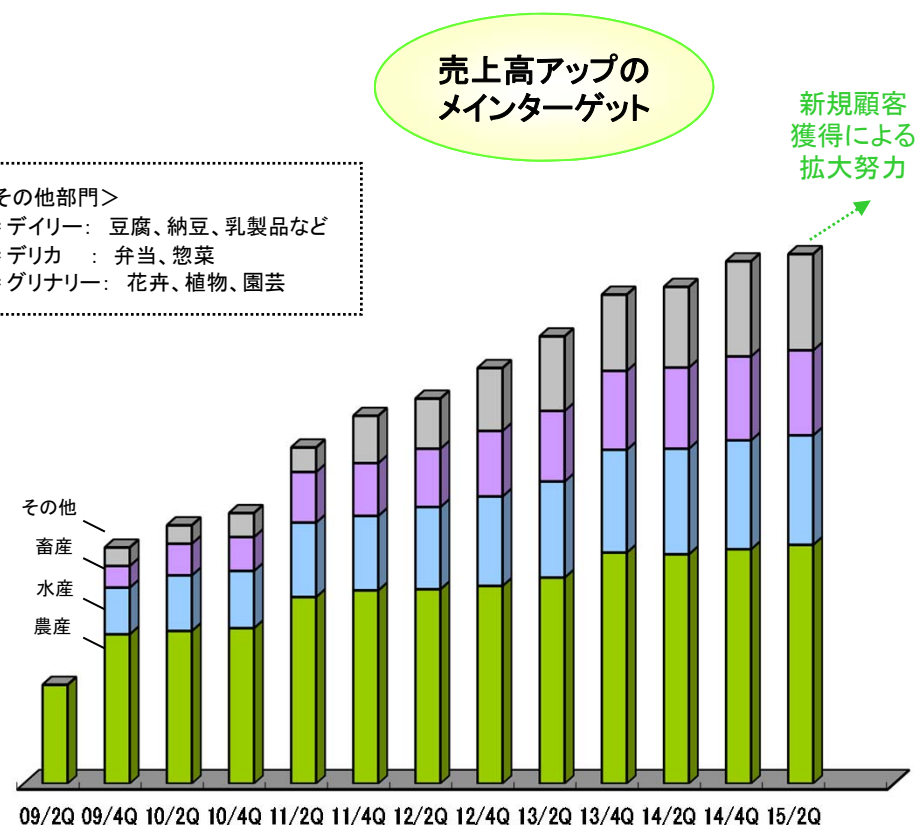
生鮮MDシステムの稼働状況： 店舗数と取引先数

小売・量販店の店舗数 (イメージ図)



取引先数 (イメージ図)

<その他部門>
 *デイリー： 豆腐、納豆、乳製品など
 *デリカ： 弁当、惣菜
 *グリナリー： 花卉、植物、園芸



➤ 2015年 5月末時点で、2,333 店舗に導入

(2014.年5月末時点：2,077店舗)

➤ 取り扱い部門の拡大にも注力

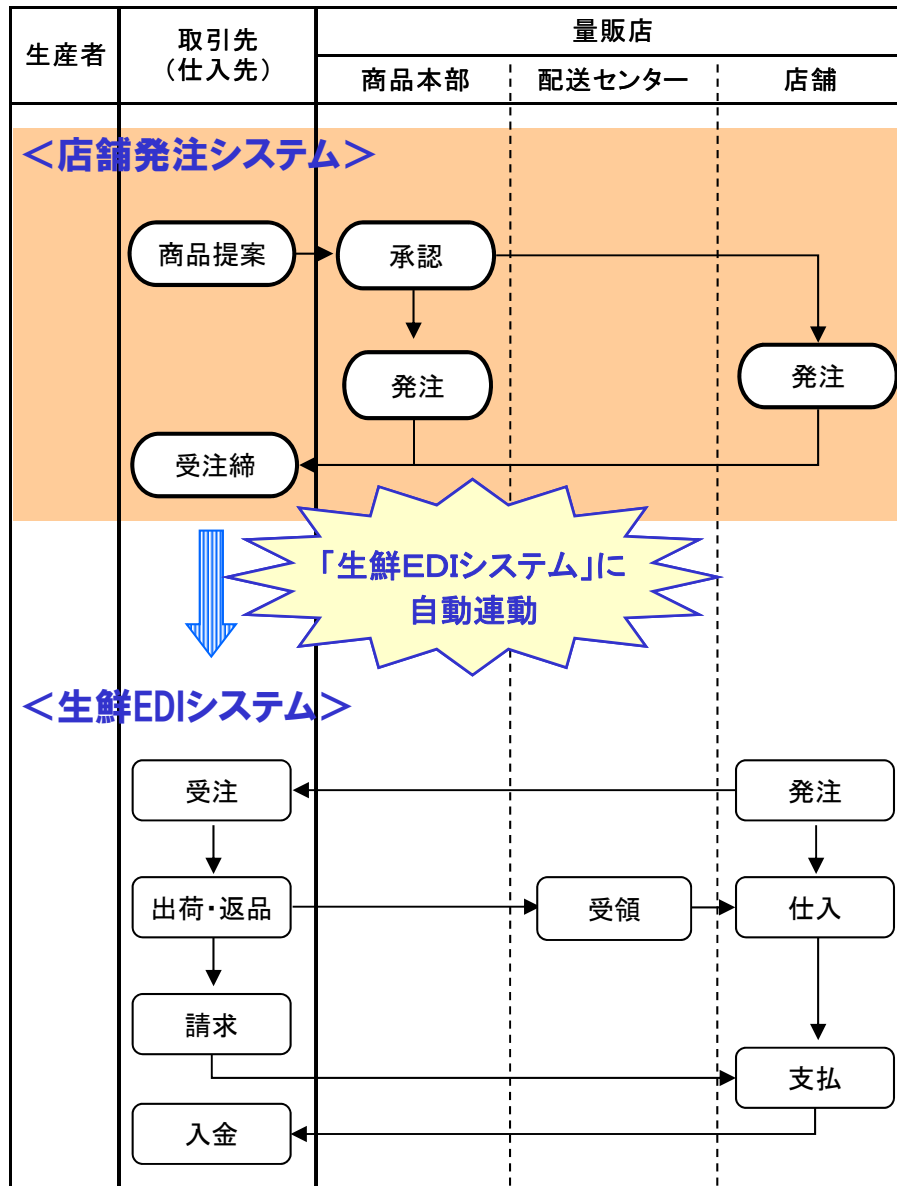
➤ 大手量販店の統合により、新規導入の拡大へ

➤ 取引先数の増加から、データ件数の拡大へ

➤ システムを採用していない取引先へのアプローチを強化

－ 生鮮MDシステム －

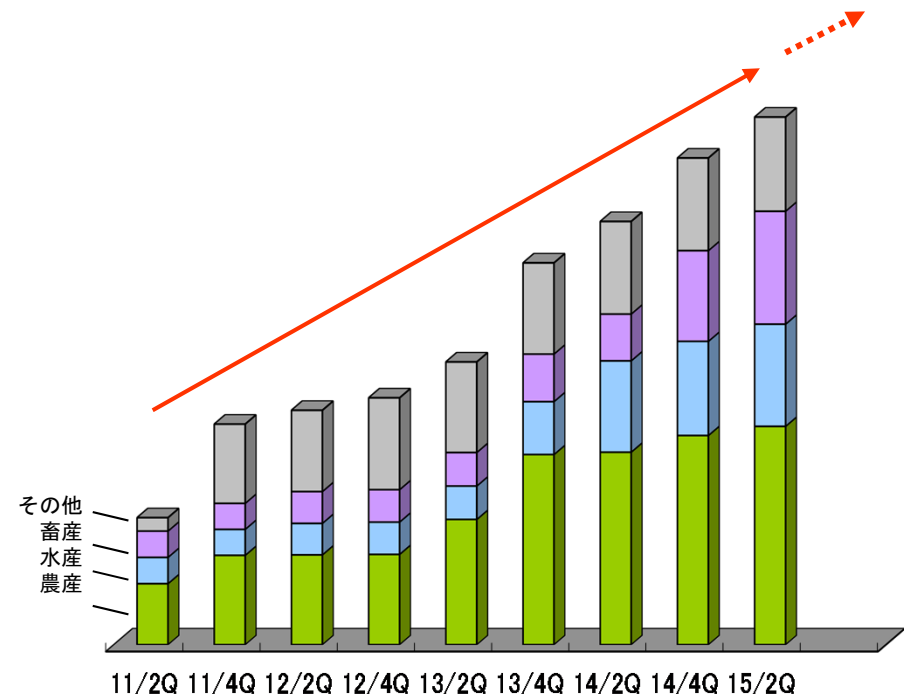
「生鮮MDシステム」はさまざまなシステムから成り立っています。



すべてシステム上で情報共有ができるので
システムの利用量 = データ量は、必然的に増える

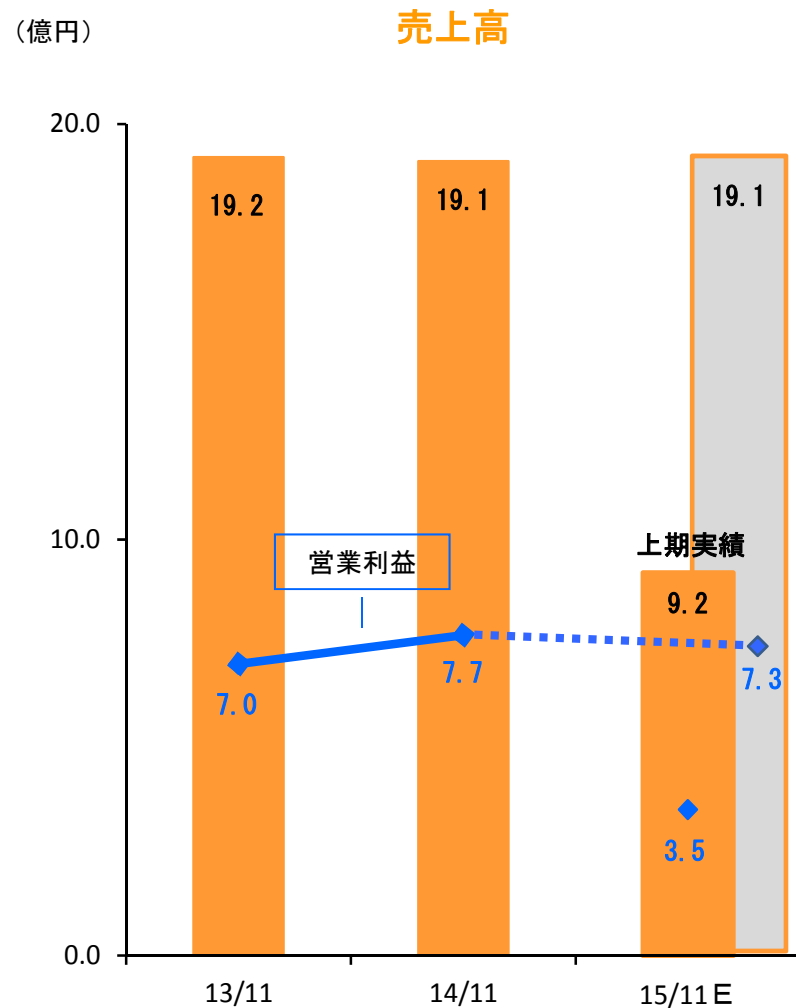
< 店舗発注システム：導入実績 >

* このグラフは店舗の中の部門別導入実績です。
量販店の形態により、一部グリナリーを「農産」に含めています。



14/11期第4Qから、畜産部門を中心に
未導入店舗への導入が進む

業務受託事業



	13/11	14/11	15/11E
売上高	19.2	19.1	19.1
営業利益	7.0	7.7	7.3

※ 売上高には内部売上高が含まれる

◆ 15/11上期の概況

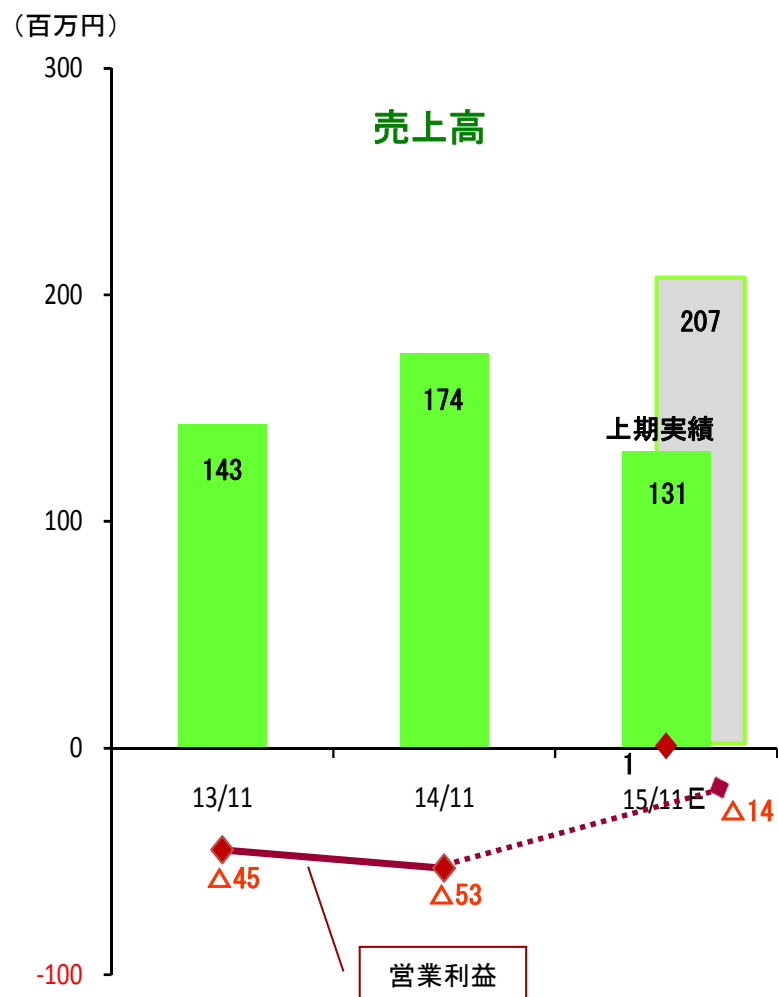
- ・ 主要クライアント企業の取り扱い商材が、天候などの影響を受けたことに伴い、業務受託量が減少

■ 15/11期の見通し

- ・ イーサポートリンクシステムVer. 2の稼働に伴い初期費用が嵩む
- ・ 主要顧客との関係強化と生産性の維持で安定した収益を確保
- ・ 付加価値をつけ、受託業務範囲の拡大を目指す

**付加価値をつけ、
顧客満足度の向上に取り組む**

農産物販売事業



◆ 15/11上期の概況

- ・ 市場価格のアップと取扱数量の増加で、前年同期を少し上回る
- ・ 従来下期に実施していた受託販売の精算を、上期に実施したため、売上計上時期が早まった

■ 15/11期の見通し

- ・ 新規組合員の増加と関係性の強化、集荷数量の増強を図る
- ・ 主要商品の多様化を図る
- ・ りんごの受託数／販売数の拡大に努め、収益力の改善を図る

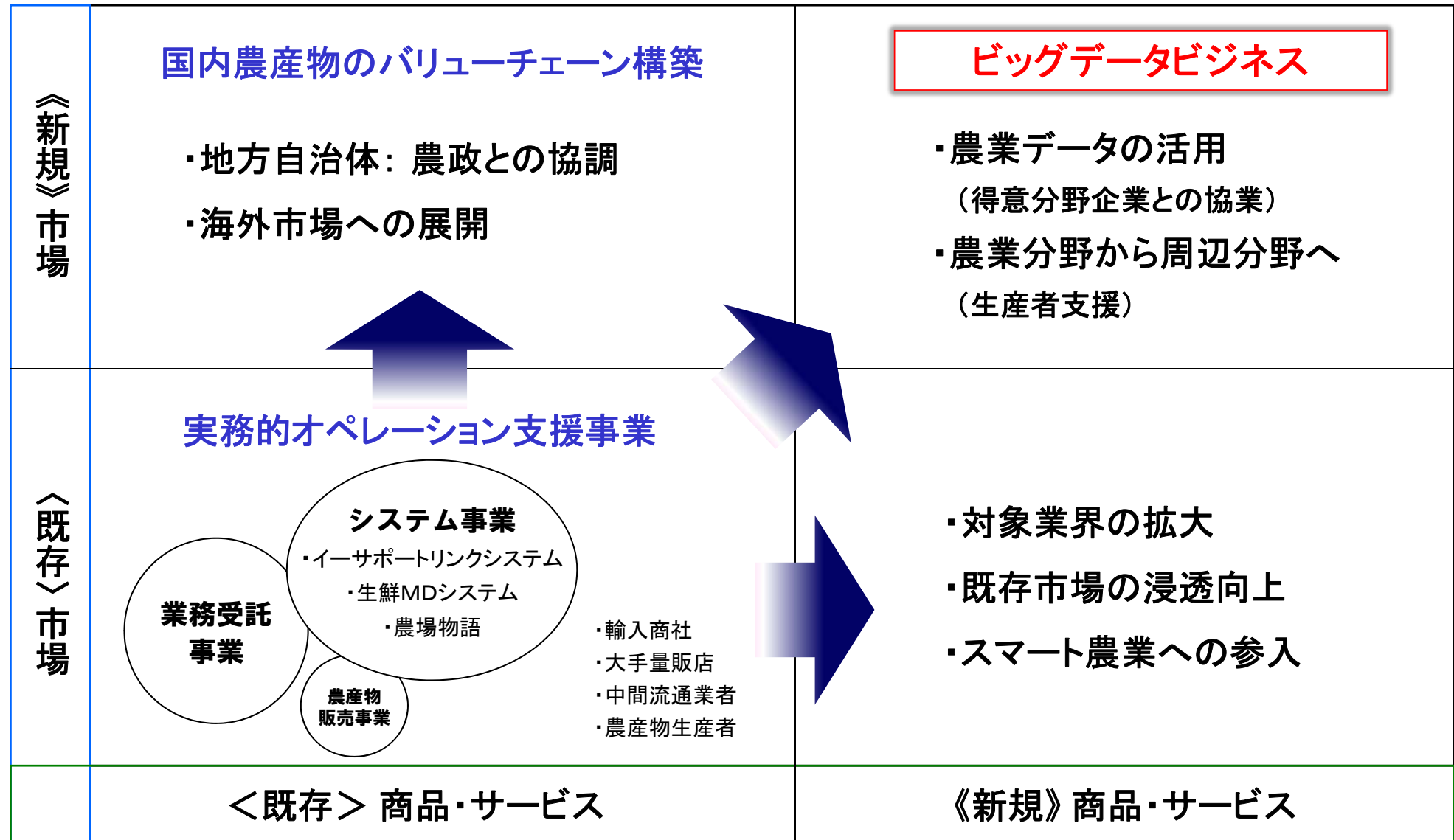
	13/11	14/11	15/11E
売上高	143	174	207
営業利益	△ 45	△ 53	△ 14

※ 売上高には内部売上高が含まれる

**安定的な集荷体制の確立と
収益力の改善に取り組む**

《 中長期的な成長戦略 》

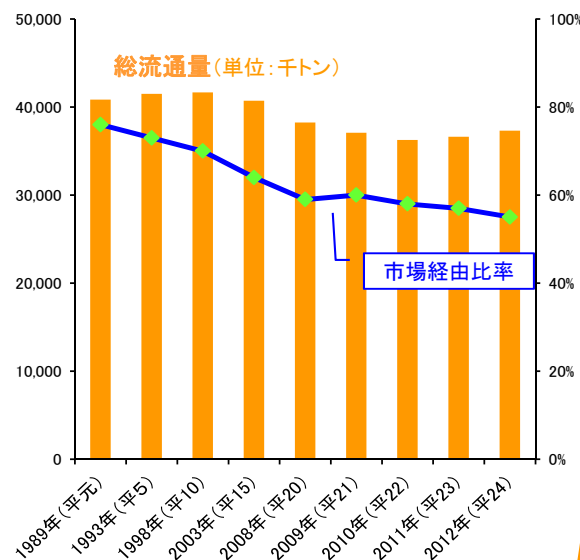
既存事業を軸に「新規市場」、「新分野」へ展開



外部環境

- TPP
- 輸入品との競争激化
- 担い手の世代交代
- 農政改革
- 少子高齢化
- 市場外流通の拡大

ー 卸売市場データ ー
(農・水・畜産、花きの流通データ)



市場を経由した流通量の割合は、年々下降

資料: 農水省「卸売市場調査報告」等より

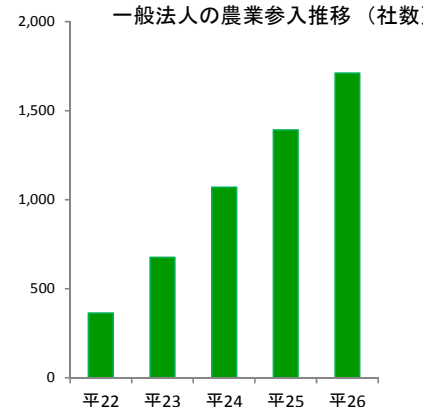
需要動向

- 農業のIT化
- 地産地消／直販
- 農業集約化
- 農作物のブランド化
- 農業技術の見える化

農業参入企業...

- 富士通
- 東芝
- 三井不動産
- 大林組
- など多数

一般法人の農業参入推移 (社数)



農地法改正後約5年で、改正前(平成21年)の約5倍のペースで一般法人が参入

資料: 農水省経営局調べ (H26.12末現在)

当社の強み

- 農業現場の知見
- 生鮮流通システムの構築
- 業務受託 (BPO)
- 生鮮流通におけるノウハウの蓄積

当社の取り組み

- 「農場物語」により農業のリアルタイムデータを収集
- 蓄積したデータをビジネスに活用
- 農業の川上から川下までを一貫してサポート
(既存システムとのシナジー効果)

参 考 資 料

設 立 : 1998年10月

上 場 : 2006年 8月 (JASDAQ市場スタンダード)

決 算 期 : 11月30日

資 本 金 : 2,721百万円 (15/11上期末)

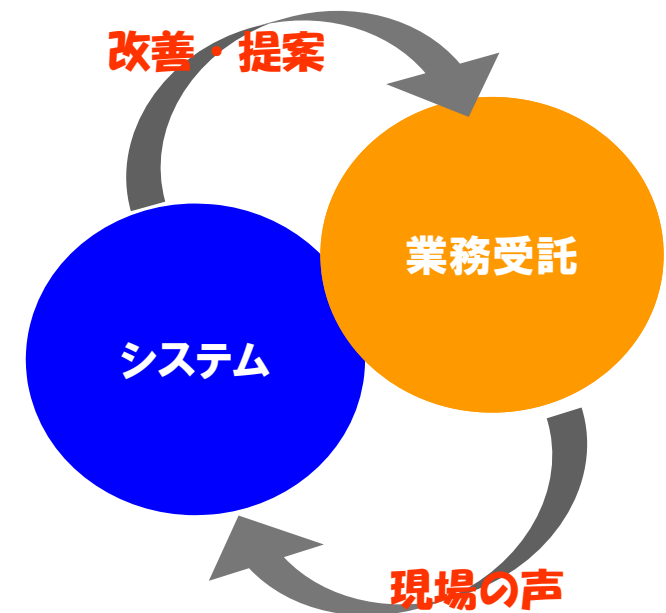
代 表 者 : 代表取締役社長 堀内 信介

本社所在地 : 東京都豊島区高田 2-17-22
(事業所: 札幌／名古屋／神戸／福岡)

従 業 員 数 : 連結 : 237名 / 個別 : 231名 (15/11上期末)
〔 他、臨時従業員数(派遣社員、契約社員 他) 〕
連結: 85名 / 個別: 67名

事 業 内 容 : 生鮮流通に関わるシステムおよび
業務受託サービスを提供

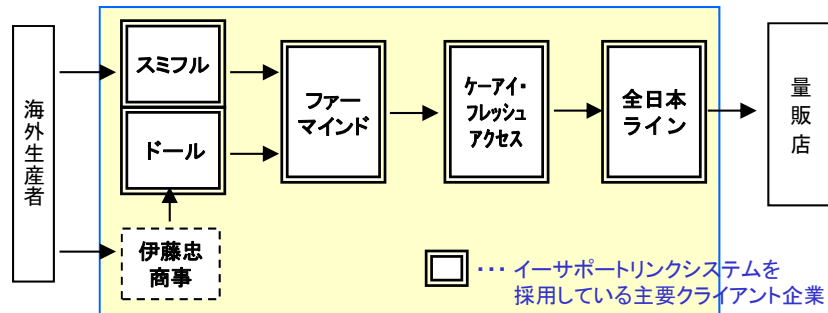
システムと業務受託を併せ持つことが
他社に真似のできない
当社の強み！



システム事業

イーサポートリンクシステム

サプライチェーンを構成するクライアント企業の堅実な事業をベースに収益を確保

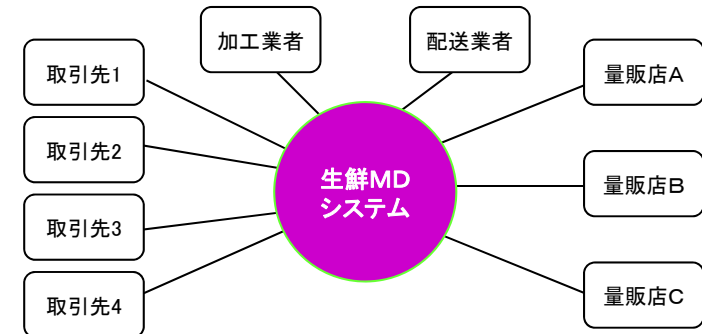


トランザクション件数に応じて従量課金
(システム上に発生する件数)

システム事業

生鮮MDシステム

小売・量販店とその取引先、仕入先をはじめ、流通に携わる全ての方が使用
農産物にとどまらず、水産、畜産*、デイリー、デリカ、グリーンリーにも展開



- ① システム使用料 (トランザクション件数) : 1メッセージあたりに従量課金
- ② ID取得・使用料 : 1IDに対して課金

* デイリー: 豆腐、納豆、乳製品など / デリカ: 弁当、惣菜 / グリーンリー: 花卉、植物

業務受託事業

業務受託 (BPO)

生鮮青果物流通に携わる、どの業種の人達にも
BPOの提供が可能

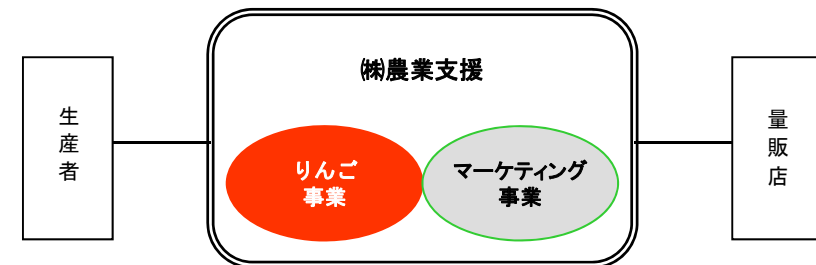


それぞれの業務代行の一取り引きに対して従量課金

農産物販売事業

子会社: (株) 農業支援

マーケティングを通じて、量販店等への販路を拡大



りんご事業 : 受託販売手数料と販売収入

生鮮青果物流通に特化した、“システム”と“ノウハウ”を併せ持っている！



流通過程に関わる業務すべてを、一元的に結ぶシステムを提供し
他に類のないSCM（サプライチェーンマネジメント）を実現

時代の要請に応えるネットワーク型システムを提供できる！



経済産業省推奨の“流通BMS”^{*}に準拠し開発した「生鮮MDシステム」を
大手量販店とその取引先が採用

生鮮青果物流通を知り尽くした万全の代行サービスを提供できる！

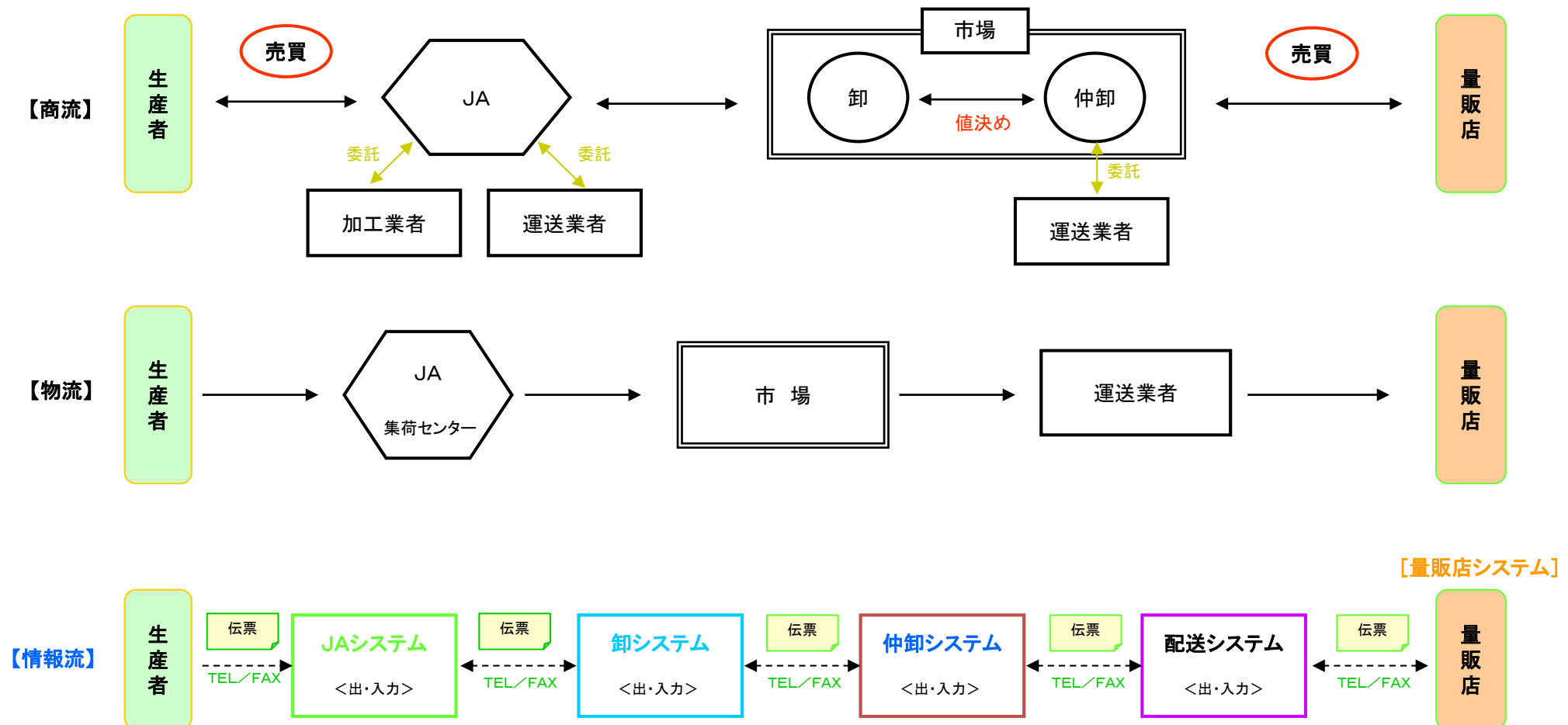


生鮮流通の生産から販売までに発生するすべての工程（受発注、入出荷、売上・仕入計上処理など）に
おいて、プロの判断とノウハウを活かした業務受託事業（BPO）で人的に対応

^{*} 流通BMS・・・流通ビジネスメッセージ標準。メッセージフォーマットを標準化させ電子的にやり取りするための形式。

生鮮青果物流通は、“複雑なプロセス”を人的に対応しています

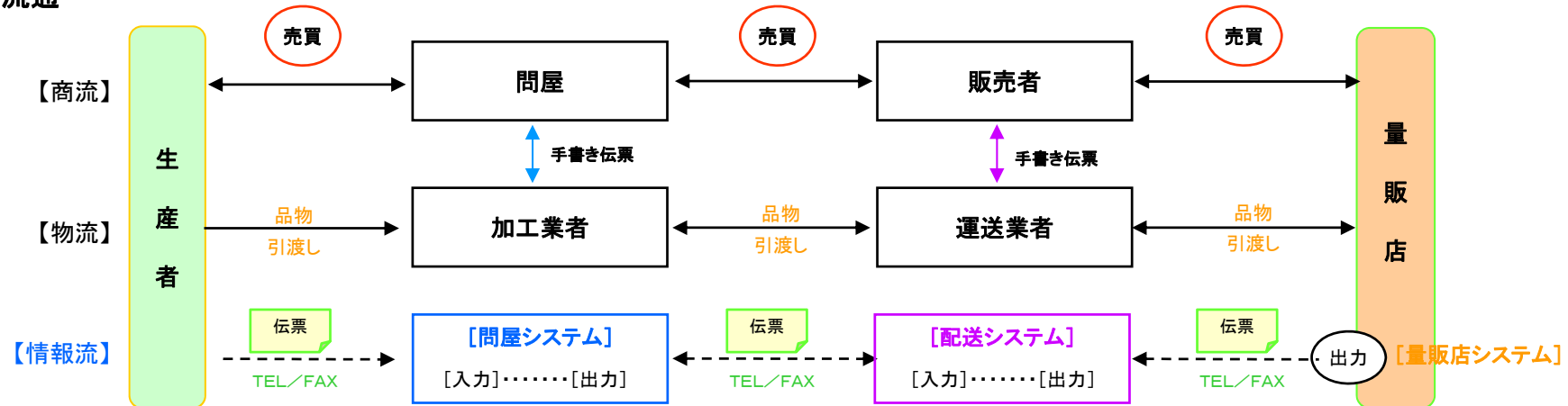
＜卸売市場流通＞



それぞれのシステムを使用しており、量販店が情報追跡を行いたくても困難！

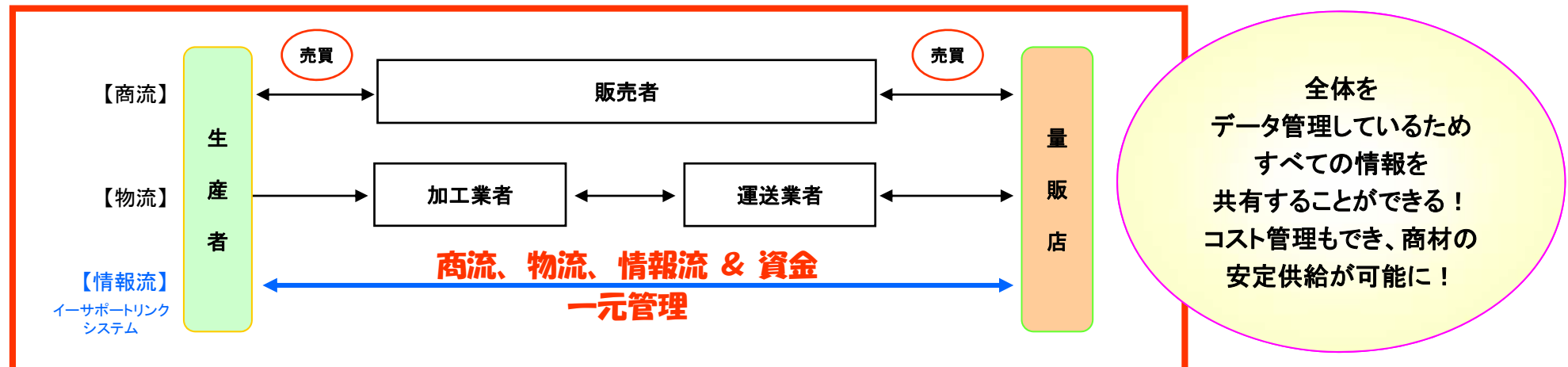
「イーサポートリンクシステム」により情報が一元管理されるため、トレーサビリティが実現！

市場外流通



全体を管理するシステムがなく、全体のコスト管理もトレーサビリティもできていない！

イーサポートリンクシステムを採用すると・・・

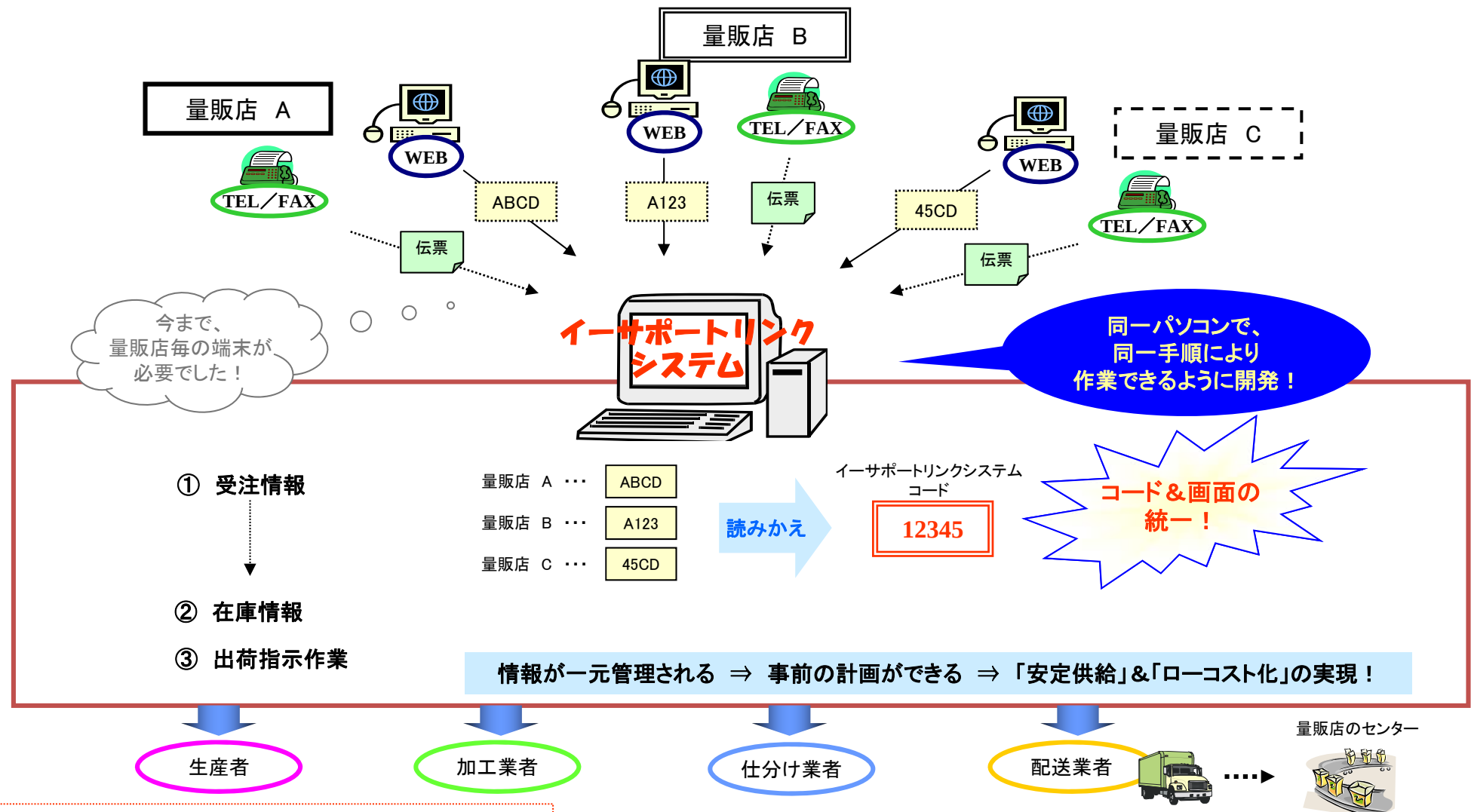


注：この図解はあくまでイメージ図で、全ての取り引きがこの限りではありません。

コードの統一化により、流通に携わる全ての人達と「情報を共有」することが可能に！

[WEB-EDI] や [TEL/FAX] により、さまざまな量販店 から、それぞれの商品コード で注文を受ける！

《 同じ商品でも、量販店ごとにコードはバラバラです！ 》



注：この図解はあくまでイメージ図で、全ての取り引きがこの限りではありません。

本資料における注意事項

本資料に記載されている内容は、資料作成時点の入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。

予想に内在する様々な不確定要因や外部環境等の変化等により、実際の業績と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

＜本資料ならびにＩＲ関係についてのお問い合わせ先＞

イーサポートリンク株式会社 事業戦略室 ＩＲ担当

ＴＥＬ： 03-5979-0784 ／ Email： IR@e-supportlink.co.jp